

徳島県立近代美術館企画交流室長
森 芳功 の



新しい
年間の
準備
時間
は
ここ
から

美術をたのしむ、美術館をたのしむ

その87 春の美術館

二五回目の新年度

すべての仕事は季節の移りかわりと共にあるのだと思います。あえて言うまでもないのですが、一年をサイクルにして年度が変わり、四月一日から新しい年間計画が実行に移されていきます。寒い日が少なくなり、徐々に暖かくなってくる春は、一年の仕事のスタートさせるうえでも始まるの時期を感じさせてくれるのではないのでしょうか。

仕事に追われて、のんびりと季節を味わえないこともあるでしょうが、一年また二年と四季を重ね、年月は過ぎ去っていきます。徳島県立近代美術館もそのようにして、この四月、開館して二五回目の新年度を迎えました。今回の「美術をたのしむ、美術館をたのしむ」は、年度末、年度はじめの仕事と新年度最初の展覧会のことをご紹介します。と思います。

新しい鑑賞シート

年度末はいつも慌ただしくなるものです。予算の執行は三月末日で区切りをつけなくてはなりませんので、どうしても仕事は重なってしまいます。私

の場合、ボリウムのあるものとして、「鑑賞シート」という美術鑑賞の教材と「研究紀要」の作成がありました。いずれも印刷物として、年度内納品を厳守しなければなりません。

この欄でも時々触れています。が、「鑑賞シート」は、小・中学校の先生方、大学の研究者、近代美術館職員でつくる研究会「鑑賞教育推進プロジェクト」で内容を検討している教材です。楽しく鑑賞できるよう工夫し、授業案、実践記録や解説を掲載した「指導の手引き」も作成しています。

「鑑賞シート」は、二〇〇四年から毎年種類を増やしていて、今年三月に発行した「墨と紙の魅力」は三番目です。これまで総計で五万部を超える数が活用されてきました。ピカソやタレー、徳島ゆかりの作家の作品など、シートを通して当館のコレクションに親しむ子どもたちは県内で着実に増えています。新しいシートは、水墨画の鑑賞をテーマとしました。豆仙人が修業の旅をしながら、水墨画の見方を身につけていくストーリーに沿って鑑賞を深める流れです。当館コレクションの他、

東京や京都の国立近代美術館などの協力を得て、近代水墨画の名品も掲載。墨のさまざまな効果や技法も学ぶことができるようにしました。

「豆仙人や墨仙人のキャラクター、シート」のレイアウトは、近代美術館の大西葵文化推進員です。授業で使う場合は生徒数を無料でお渡ししますので、関心のある方はぜひご連絡下さい。

研究紀要

「徳島県立近代美術館研究紀要」は今年16号を発行しました。「廣島晃甫(新太郎)の版画」を掲載しています。大正期の日本画に大きな業績を残した徳島出身の日本画家の版画作品についてまとめたものです。晃甫は、日本ではじめての版画団体の展覧会を開いたメンバーの一人です。近代版画史にも名を刻んでいます。近く当館ホームページでも見ることができるようになりますので、ご覧いただけたらと思います。紀要のバックナンバーは、当館トップページ左側「ごあんない」の「活動」→「活動報告」から入ることができます。

「美の饗宴」展

年度末は、一年間の仕事のまとめをしながら、新年度の準備も進めなければなりません。とくに年度はじめの展覧会や普及事業は、直前の時期となりますので、担当者の慌ただしさはどうしても増していきます。

とくに、四月二九日からはじまる「美の饗宴 西洋絵画の300年」展の担当者(吉原美恵子上席学芸員、江川佳秀学芸調査課長)は、三月から四月にかけて、美術館のなかで最も忙しい人となりました。印刷会社からポスター、チラシが納品され、発送作業を行う一方、展覧会図録の編集、展覧会の広報、展示計画の作成、所蔵館との調整など。息つく暇もなく多くの仕事をこなさなくてはなりません。

しかも、今年が文化の森開園二五周年ということもあって、徳島新聞社と県教育委員会がつくる文化の森二五周年記念実行委員会が主催する展覧会となっています。相談しなければならぬ人も増えますので、美術館単独の展覧会よりも、関係者と打ち合わせする場面も多いようです。

「美の饗宴」展は、東京富士美

術館の所蔵作品をお借りし、パロツク、ロココからエコール・ド・パリまで、西洋絵画の三〇〇年をたどりま
す。そのような西洋絵画の歴史
を概観する展覧会は、徳島では
久しぶりの開催となります。

この原稿を書いているのは展
覧会がはじまる前の時期です
ので、担当の吉原学芸員は、所
蔵館で作品の状態チェックをし
ながら輸送準備をしています。
その作業が終わると、輸送のト
ラックに乗って徳島に帰り、展
示作業に入ります。

ヴァン・ダイクの〈アマリア・ファ
ン・ソルムス・ブランウェルスの肖像
〉(二六二九年)、アンゲル〈エビ
テルとテティス〉(一八〇七―二
五年頃)、モネ〈海辺の船〉(一八
八年)のような、よく知られた
作家の名品も展示されます。

新収蔵作品

新年度の所蔵作品展は、すで
にはじまっています。開催中の
「所蔵作品展2015」は、「特
集 新収蔵作品を中心に」、「小
コーナー 美術館が生まれた頃
1990年頃の作品を中心に」、「
徳島県立近代美術館名品選」
の三コーナーを設けました。

「新収蔵作品を中心に」(五
月―七日まで)は、昨年度収集
した所蔵作品のお披露目の展
示です(担当…安達・樹上席学
芸員)。展覧会場に入ると、広々
とした空間に設置された青木
千絵(BO DY 〇8―1)(二
〇〇八年)が目飛び込んでき
ます。高さが三メートル余りあ
る黒い漆による立体作品で、度
見たら忘れられない、強い印象

を残すかもしれません。

女性の両脚がリアルに表されて
いるのですが、腰から上は、抽象
的な形態がゆるやかに湾曲しな
がら上方に伸びています。足元
を除き黒い漆で仕上げられた乾
漆技法の作品です。「漆黒のなか
で、陰と陽のような二つのもの
間にさまよう自分と、自分の存
在のありかたを探し求めている
姿」が形になっているといいま
す(安達・樹「所蔵作品紹介」『近代
美術館ユース』九二号、六頁)。

作者の青木千絵さん(一九八
年)は、金沢市立美術工芸大
学大学院博士後期課程を修了
(博士)。中国の湖北美術館や
アメリカのミネアポリス美術館
がコレクションするなど国際的
に活躍しています。同じ空間に
展示された既収蔵の黒川弘毅、

津田亜紀子、ジャコメッティと
もに醸し出される雰囲気をお
楽しみください。

他の新収蔵作品としては、森
口宏一、大久保英治、吹田文明、
渡瀬政近、石川真五郎、三宅克
己の作品を展示しています。

今年度の所蔵作品展は、「開
館25周年記念」と銘打った特
別編成で構成しており、特集コ
ーナーは、五月―九日から「徳島
ゆかりの美術」がはじまります。

遅咲きの桜道

私は、「すべての仕事は季節の
移りかわりと共にある」と書
きながら、実はうかつにも、桜
の花を楽しむことなく春を過
ごしていました。雨の日続きで、
あつという間に花が散り、お花
見の機会を逸したからなので
す。今朝(四月二〇日)も県南
で大雨が降りました。私の通
勤路も小雨が降っていたので
すが、たまたまいつもと一本違
う道を通つたとき、遅咲きの八重
桜が小径をピンク色に覆ってい
ました。その上を自転車であ
るとき、私もようやく年度が
わりの頃の季節感を感じるこ
とができたように思いました。
春の時期を切れ目なく働いて

いる皆さま、どうか疲れが出ま
せんように。そして、連休のある五
月には、日常からひととき離れ、
美術鑑賞を楽しんでいただけた
らと思います。お待ちしております。

5月の催し

■美の饗宴 西洋絵画の30
0年―バロック、ロココからエ
コールド・パリまで―(6月21日「日」)

・音楽と共に楽しむ展示解説
10日「日」出演…新田恭子(サ
クソフォン)×山田俊美(チェンバロ)

・学芸員による展示解説 24日
「日」講師…吉原美恵子(当館)

■所蔵作品展2015「特集
新収蔵作品を中心に」(17日
「日」)「特集 徳島ゆかりの美
術」19日「火」)

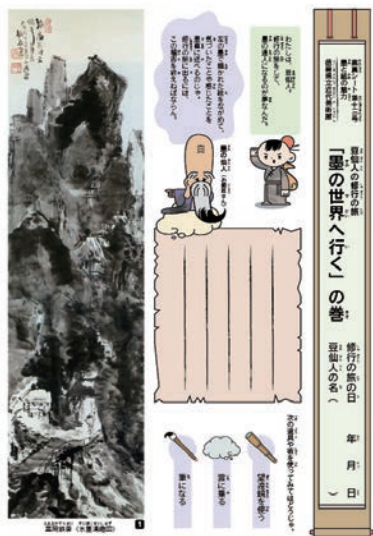
・テーマで知る名品「新収蔵作
品紹介」この作品を買った理
由(わけ)「4日「月祝」講師…
安達・樹(当館)

・テーマで知る名品「美術館が
生まれた頃」6日「水振休」講
師…吉川神津夫

・テーマで知る名品「徳島ゆかり
のコレクション25年」こぼれ話」
31日「日」講師…森芳功(当
館)

※いずれも、午後2時から、展覧
会場。

□文化の森こどもの日フェス
ティバル「美術館でお気に入り
を見つけよう」5日「火祝」午前
9時30分―午後4時



鑑賞シート第13号「墨と紙の魅力」1ページ



アントニー・ヴァン・ダイク〈アマリア・ファン・ソルムス・ブランウェルスの肖像〉1629年 東京富士美術館蔵